

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1010701066		
法人名	社界福祉法人ほたか会		
事業所名	グループホームあおなし		
所在地	前橋市青梨子町1670		
自己評価作成日	平成23年8月6日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-joho.pref.gunma.jp/">http://www.kaigo-joho.pref.gunma.jp/</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど		
所在地	群馬県前橋市大渡町1-10-7 群馬県公社総合ビル5階		
訪問調査日	平成23年9月2日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

今年度は、さくら棟が開設11周年、あじさい棟が開設10周年という節目の年ということで、館内の改修工事を行いました。それにより、職員の環境美化に対する意識が高まり、ご入居者が安心して和むことのできる空間作りにより一層力が入るようになってきています。同時に、物を大切に扱ってほしいという思いが高まり、コスト意識の向上にも繋がりました。また、これまで入居者本位のケアを行ってききましたが、職員の都合を押しつけてしまっているな面もありました。そこで、職員からも意見を聴き、業務日課の見直しをしたところ、気持ちにゆとりが生まれ、更なるケアの充実に繋がっています。余暇活動の充実として取り入れたサークル活動では、前橋市の七夕まつりに入居者とともに制作したちぎり絵を出展し、大きな達成感を得たことでより良い関係作りをすることができました。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

運営推進会議に利用者も参加し、積極的に発言しているため、参加している家族・地域の方・行政関係者等が直接利用者の思いを聞いたり、施設の状況等を知る機会にもなっている。施設発行の「おたより」に利用者各人のホームでの暮らしぶりのコメントとホームで見せる利用者の様子の写真を掲載して家族に届けている。この取り組みは利用者・家族・施設との関係の継続にも役に立っていると思われる。地域性や施設の立地条件等の関係もあり、地域の方がホームに出入りすることが少ないので、ホームの行事のお誘いや情報の発信を積極的に行って、地域の方が気軽に訪問してくれるように努力している。震災の関係で外出が少なくなったことを機会に、余暇活動として手芸・インテリア・カラオケ・園芸等のサークルを作り、利用者は関心のあるサークルに参加して、楽しみのある時間を持っている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価
			実践状況	実践状況  次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義及び法人の理念を踏まえた運営理念を作り、それを基にした目標を毎月掲げ、職員はそれに従い、業務にあたっています。	法人の理念とは別に地域との関わりを盛り込んだ事業所の理念を新しく作成し玄関に掲示している。新入職員には入職時に理念の説明をしている。理念に基づいた目標を毎月掲げ、担当職員を中心に唱和し、確認して実践に繋いでいる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	廃品回収やどんど焼きなどの地域行事に参加させていただき、文化祭へはご入居者の作品を出展させていただいています。職員はホームの外で地域の方とお会いしたら、明るいあいさつをするよう心がけています。	地域で開催している廃品回収やどんど焼きに参加している。地域行事の文化祭には習字や編み物などの作品を出品したり、芸能発表を見に行き地域の人との交流の機会を持っている。散歩の時には会話を交わす等触れ合いの機会を大切にしている。施設行事の案内をして近隣住民の参加をお願いしている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の皆様に、ホームを知っていただくことで、認知症への理解を深めていけるよう、ホーム内行事への参加を呼びかけていきたいと思っています。	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事への参加や、食事をともに召し上がっていただいたり、外部評価後の取り組みのご報告をし、ご意見を伺っています。スプリンクラーの設置後には、防災対策の説明会を実施し、ご意見をいただいています。	運営推進会議は年に6回、利用者・家族・行政関係者・地域代表・管理者の参加で開催している。行事と合わせて開催する等出来るだけ多くの方に参加してもらう工夫をしている。外部評価結果や事業所・利用者の状況等の報告、防災訓練や介護に付いての意見交換をしている。利用者も参加者の一人として積極的に発言している。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	前橋市主催の集団指導に参加しています。前橋市のホームに対する実地指導も一昨年度より、サービスの質に関する確認が中心になっています。	市主催の勉強会への参加、申請書類の提出や家族との対応についての相談、施設案内のパンフレットの補充等で行政に出向き、連携を深めるよう努めている。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	群馬県や地域密着型サービス連絡協議会主催のシンポジウムや法人内の研修に参加して、理解を深めています。玄関の施錠については、ご家族からも意見を伺い、より安全・安心な環境作りの一環として、継続することで賛同を得ています。	玄関の施錠は身体拘束であることを確認し、鍵をかけない暮らしの大切さとそのリスクに付いても関係者で話し合い、見守りや利用者の状況の把握等により鍵をかけずに安全に過ごせる工夫を重ねて欲しい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	当法人で行っている研修に毎回参加しています。ケアの内容を変更する際も、虐待に相応しいか、検討しています。漫然としたサービス提供が見逃されないよう職員のユニット異動等で、環境への配慮をしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	当法人内の介護研修センターでの定期的な研修に参加しています。ご家族から相談があった際は、随時対応しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約に関する締結・解除の際は、必ず、利用者代理人であるご家族およびご利用者に、ホームへ出向いていただき、管理者が直接、希望・要望・質問等を伺うことにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者・ご家族からの意見等を直接受け取った際は、必ず経過記録に残した上で速やかに報告し、都度対応しています。玄関へ「ご意見箱」を設置、年1回アンケートを実施して、意見しやすい環境作りに努めています。	家族の面会時には声をかけて話しやすい雰囲気を作っている。家族との会話や年に1回実施のアンケートの結果からの要望や意見等を運営に反映させている。洗濯物の配り違い、職員からの声かけを出来るだけして欲しい等の意見や要望については改善に取り組んだ。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や定時報告で、意見・提案を聞く機会を設けています。ご利用者本位の良い意見を聞けることも多いので、意見具申を支持・奨励しています。また、発言しやすい環境とするため、対話を重ねるよう、努めています。	月に1回の全体会議や申し送り時に職員の意見や提案を聞いている。会議では問題提起をして職員の意見を聞く機会を作っている。職員から業務日課の改善の提案があり改善に繋いでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人の方針として、報告連絡相談のフローが明確になっています。職員一人一人が向上心を持って働くことがご入居者のため、自分自身のためとなることを奨励し、支持しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	当法人内の介護研修センターでの研修や、群馬県地域密着型サービス連絡協議会主催の研修に参加し、ひとりでも多くの職員が、スキルアップの機会を持てるよう努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	群馬県地域密着型サービス連絡協議会設立当初から加盟しており、地域の同業者との交流があります。相互訪問や事例発表会などを通じてサービスの質の向上に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談の段階で、機会があればご本人からどうありたいかを伺い、その意向を十分に受け止めるよう努めています。また、入居前に面談できない場合は、ご家族に、どうあってほしいか等、伺っています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談から利用に至るまでの様々な機会でご家族の意向を確認させていただいています。特に、ご本人にどうあってほしいか、ということは丁寧に聞き取りし、ケアプランに活かしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時がサービスを受けたい時であることを理解し、グループ内施設を紹介させていただいたり、具体的にGHへの入居を希望されている場合には、市内の複数のGHへの見学・相談を勧めることもあります。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、日々の生活の中でご入居者から教えられることが多く、尊敬し、気持ちを分かち合い、助け合いながら過ごしています。職員・ご入居者がともに発する「ありがとう」の言葉からも、その様子が伺えます。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人のその時々ニーズに応えるべく、情報提供していただき、協力を得ています。熱心なご家族ほど、ご本人の力を信じて引き出すことに理解を示してくださり、積極的に関わってくださいます。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人やご家族の意向を伺いながら、外出や面会をしていただいています。あるご入居者のかつての教え子が面会に来られた際には、ともに大喜びされ、良い関係の維持に繋がっていると改めて感じています。	在宅時の記憶や関係が途切れない様に、週に2回家族が自宅や外食に連れていく方、かつての教え子が訪問する方等、これまでの関係が気持ちよく継続出来るよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良いご入居者同士を近くの席にしたり、一緒にレクリエーションに誘うなどして、楽しい時間を過ごしていただいています。お互いの体調を心配し合う場面もあり、温かな交流が継続するよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居されたご利用者のご家族から、新たな入居相談を受けることもあります。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の習慣や価値観を理解した上で、言語・非言語による表現から意向を把握するよう努めています。カンファレンス等で、ご入居者の発言から複数の職員による意見交換をしています。	家族や関係者からの情報、利用者の日頃の言動、何気なく示す顔の表情等から思いや意向を把握している。意志表示を一つの単語による利用者の場合、その時々の場合に共通するものを職員は共有し対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居相談の段階で、生活歴を聴き取りさせていただき、言動の意味付けや動機付けに用いています。職員は、普段の言動の中から観察し、生活歴等を探っていくよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	どんなことに意欲を示し、食後はどう過ごしたいのか、など、ご本人が発しているサインを見落とすことのないよう日々の観察をし、その人らしい生活・出来ることの把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご入居者とご家族の意向を伺い、カンファレンス等、職員間での話し合いを経て、介護計画の作成をしています。職員は、日常のケアの工夫や気づきを記録に残し、介護計画に反映させています。	本人・家族の意向を踏まえて、カンファレンス等で話し合い介護計画を作成している。モニタリングは月に一度行っているが、計画の見直しの時期についての確認が出来ない。	毎月のモニタリングを基にして3ヶ月に一度は計画の見直しをお願いしたい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	経過記録に職員の実践内容や気づきを記入し、情報交換や介護計画の見直しに役立っています。記録＝その時に起こった事実を記載すること、に終始してしまう傾向にあります。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療連携体制や短期利用を活かして、柔軟な支援ができるよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご入居者個人ではなく、ホームとして地域参加するという関わりは持っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居契約時に、往診を受ける協力医療機関がかかりつけ医になることを了承いただいた場合、ご本人・ご家族の希望を尊重し、かかりつけ医から指示・助言・説明を受け、適切な治療が受けられるよう支援しています。	本人・家族の希望するかかりつけ医となっている。週に1回協力医の往診があり受診している。受診の結果は記録に残し、家族には電話等で知らせている。協力医から直接家族に説明のある時には家族に連絡し、その機会を作っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制を十分に活用しています。同一法人の青梨子看護ステーション所属の訪問看護師からは、往診医師の指示を踏まえた日常の健康管理や医療の必要性について、助言・支援を受けています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご入居者の入院中も、主にご家族を窓口にして、情報収集に努めています。必要に応じて、病院関係者と直接連絡を取り、出来る限り早期に退院できるよう連携をとっています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医・訪問看護師・GH職員、そしてご家族も含めて、ご入居者の終末期を支援するチームを構成しています。ご家族にカンファレンス等に出席いただき意向を確認し、ホームとしてのできること・できないことと、ご家族の意向のすり合わせをしています。	事業所としての重度化や終末期に向けた指針が作成されている。関係者の協力を得て、家族の思いを確認しながら対応しており、これまでに看取りの経験をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は、AED講習や普通救命講習を受け、緊急時対応マニュアルも整備しています。実際の事故発生時には迅速な行動が出来ないことが予測されるため、一人に対応せず、応援を呼ぶことを日頃から励行しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自動通報装置を始めとする防災整備があり、スプリンクラーも完備しました。年2回の防災訓練を実施し、初期消火方法や避難経路等の確認を行っています。また、地域の皆様に防災協力員をお願いしています。	自動通報装置やスプリンクラーを設置し、消防署の協力により隣接法人施設と合同で年に2回、避難訓練(昼夜を想定)を行っている。事業所独自で災害時の対応についての勉強会を年に2回開催している。ホームの飲料水や食料の備蓄は隣接する青梨子荘(老健施設)に用意されている。地域の方には防災協力員を依頼している。	いざという時に慌てずに避難誘導が出来るよう、年2回の合同避難訓練とは別に事業所独自の訓練の機会を作って欲しい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者の誇りやプライバシーに配慮した言動を心がけ、第三者からの視線を持ち続けるよう注意喚起しています。法人として、個人情報保護に関する研修の機会を設け、職員の意識を高めています。	入職時に個人情報保護に関する誓約書を交わしている。名前の呼び方やトイレ誘導時の声かけ等には特に配慮している。法人内研修で個人情報の漏洩、プライバシーの確保等に付いて学習している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	例えば、家事を手伝う・入浴後に着る服を決めるなど、日常の何気ない場面においても、自己決定できるよう、職員は一人ひとりに合った手段を用いて、支援にあたっています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課はある程度決まっていますが、その時々々の気分や思いに沿って生活を送れるよう努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月2回の訪問美容サービスで、カットやカラーを楽しんでいただいたり、日々の生活では、洋服を一緒に選んだりしています。怪我等で、ご自分で整髪できない方へも普段通りのおしゃれができるよう支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳や洗い物を自分の役割として、手伝ってくださるご入居者がいます。手作りおやつやレクリエーションや誕生ケーキ作りでは、ご入居者それぞれが参加できるよう工夫し、楽しんでいただいています。	食べたい物の希望や嗜好調査をしてメニューに反映させたり、外食に出かけて好きな物を食べる機会を作っている。利用者は能力やその時の気分で配膳や洗い物をしている。職員と利用者が一緒に食事をしたこともあるが、利用者の身体的な問題もあり、現在は朝食のみ一緒に食事は食事介助にあっただけである。	同じ食事を利用者と職員と一緒に味わうことで美味い不味いを共に実感し、献立作成や両者の関係作りにも反映出来るので、一緒に食事を楽しむ方向で話し合っただけである。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は、グループ内企業に委託していません。補食や好みのおかずを個別に用意したり、食事形態や盛り付けを工夫し、食事量確保に努めています。提供前に、ミキサー食も検食し、おいしい食事を心がけています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食前のパタカラ体操で唾液の分泌を促したり、毎食後、全員の方に歯磨きをしていただいています。できることを尊重しながら、仕上げをさせていただき、清潔保持に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時のトイレ誘導に捉われず、排泄パターンや排泄サインを観察し、気持ちよく排泄できるよう努めています。おむつの着用＝本人にとって不快である、という認識のもとトイレでの排泄に取り組んでいます。	排泄チェックをして各利用者のパターンを把握し、時間にとらわれず、排泄サインを観察しながらトイレでの排泄支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ひどい便秘に対しては、医師の指示のもと、内服薬や浣腸・坐薬でコントロールをしています。便秘予防としては、水分を多く摂っていただけるよう、飲み物や容器の工夫、排泄時の腹部マッサージ等を行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一般浴が困難な方に対しては、リフト浴のできるユニットで入浴を行っています。何らかの理由で拒否される方へは、その理由を言動から観察し、楽しく入浴していただけるように努めています。	基本的には午後入浴となっているが、希望があれば毎日でも希望に沿った対応をしている。入浴拒否の場合は様子を観察しながら時間をずらすか言葉かけの工夫等での対応に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	長夜に休息をとる習慣のある方、疲れている様子の方など、一人ひとりの生活習慣や体調・体力に合わせ、適度な休息をとっていただき、夜間は安眠できるよう環境を整備したり、寝付くまでそばで寄り添ったりしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容の理解については、乏しい面があります。勉強会により内服することへの意識は、高くなっており、飲み込みの確認や落葉が多い方へのダブルチェックなどでご入居者に不利益にならないよう努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事をしたり、植物の世話をしたり、歌を歌ったり、新聞を読んだり、飴をなめたり・・・その方らしい役割・楽しみごと・気晴らしを支援しています。大切な気分転換や、落ち着きを取り戻すきっかけにもなっています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家事を兼ねたものや、レクリエーションとして、散歩程度の外出は日常的に行っています。気分転換の訴えがあった際には、外を散歩していただいたりして、出来る限り希望に添えるよう努めています。	散歩・買い物・外食・隣接するホームへの訪問・ゴミ捨て等、出来るだけ希望に添いながら、戸外に出る機会を作っている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金を所持されている方へは、毎日確認させていただいていますが、他のご入居者にお礼として渡してしまうことがあります。ご自分のために使う、ということには至っていませんが、安心感には繋がっているようです。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方に住んでいるご家族から、希望によりご入居者に電話を取り次ぎ、話をさせていただくことがあります。また、ご入居者の電話の訴えから、サインを読み取り、ご面会の協力を仰ぐケースもあります。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は、大きな窓や吹き抜けがあり、明るく開放的な雰囲気です。居室からは、方角によっては桜や楓が眺められ、館内装飾にも季節感を意識したものを施しています。ゆったりとした、温かみのある空間となるよう努めています。	共有空間には大きな窓や吹き抜けがあって室内は明るく、ホールや廊下には大きな鉢植えの観葉植物が数多く置かれてホッとする雰囲気となっている。ホールに利用者の作品・行事の写真・手作りカレンダー等を飾ったり、神棚を供えたりと家庭的で落ち着いた居場所の工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	生活する中で、自然と好きな場所が決まっているご入居者も多く、会話を楽しんだり、編み物をしたり、テレビを見たりと共有空間でも、思い思いに過ごされています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で愛用していた家具、ご家族の位牌や仏壇、アルバムなどご本人にとって愛着のある品物を持ち込まれている方も多くいらっしゃいます。馴染みのものに囲まれ、安心できる空間となっているようです。	整理ダンス・好みの洋服・アルバム・位牌や仏壇等、馴染みの物や愛着のある品々を持ち込んで、利用者それぞれが落ち着いて過ごせる居室作りをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	館内は手すりを完備し、一人ひとりに合った自立支援をするべく、設備・備品の使い方を工夫しています。見守りを要するが自ら動き出せる方へは、離床センサーを使用し、自然に寄り添えるよう努めています。		